

情緒の安定を図りながら、コミュニケーションの素地を養っていかうとした実践

## すきなことにいきいきと取り組む子をめざして

倉 真理子

### はじめに

U男は、新しい環境や事柄に対して大変警戒心が強い。新しいことに取り組もうとしたり、今していることを止められたりすると、大声で泣き近くの人をつねり頭突きをし、自分でわざと勢い良く尻餅をつくような自傷行為もした。これは、自分の思いを通したいというU男の自我であるとともに、自分の思いが相手に上手に伝えることができない苛立ちにも起因しており、本児のSOSのサインのように思われた。少しでも本児の意思をくむことによって、持てる能力を発揮させたいと思い、この研究に取り組むことにした。

### 1 プロフィール

#### (1) 生育歴

・昭和61年10月27日生 8歳1か月 小学部2年 男子

・平成2年4月 心身障害児通所施設

遠城寺式乳児発達検査 (H6.4実施)

・平成5年4月 本校入学

移動	手の運動	生活習慣	社会性	発語	言語理解
4:0	3:8	3:0	2:0	1:4	1:4

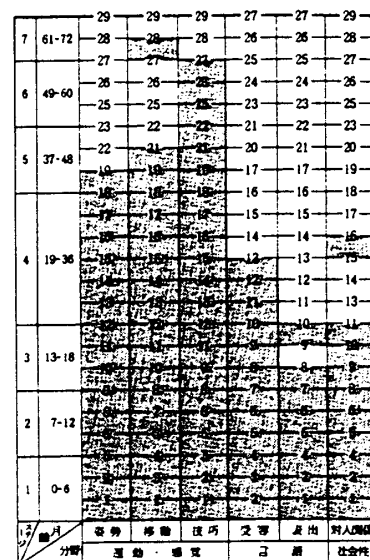
#### (2) 諸検査による実態

・遠城寺式発達検査では、移動や手の運動に比べ社会性や発語や言語理解の遅れが顕著に見られる。

・さらに、ムーブメント教育プログラムアセスメントによってもほぼ同様の結果が見られるが、受容言語が第4ステージ (19~36か月発達レベル) であるのに比べ、表出言語が第3ステージ (13~18か月発達レベル) であり、表出言語の遅れが顕著である。(右図)

MEPAプロフィール表 (H6.10実施)

— Profile for Movement Education Assessment —



#### (3) コミュニケーションに関する実態

日常生活の慣れたことでは指示を聞き入れ行動する。自ら進んで発語することはあまりないが、給食のおかわりや「~して遊びたい」という要求を視線を合わせて「あー」という音声を発し、指さしをしたり、相手の身体に触れたりして表すことができる。

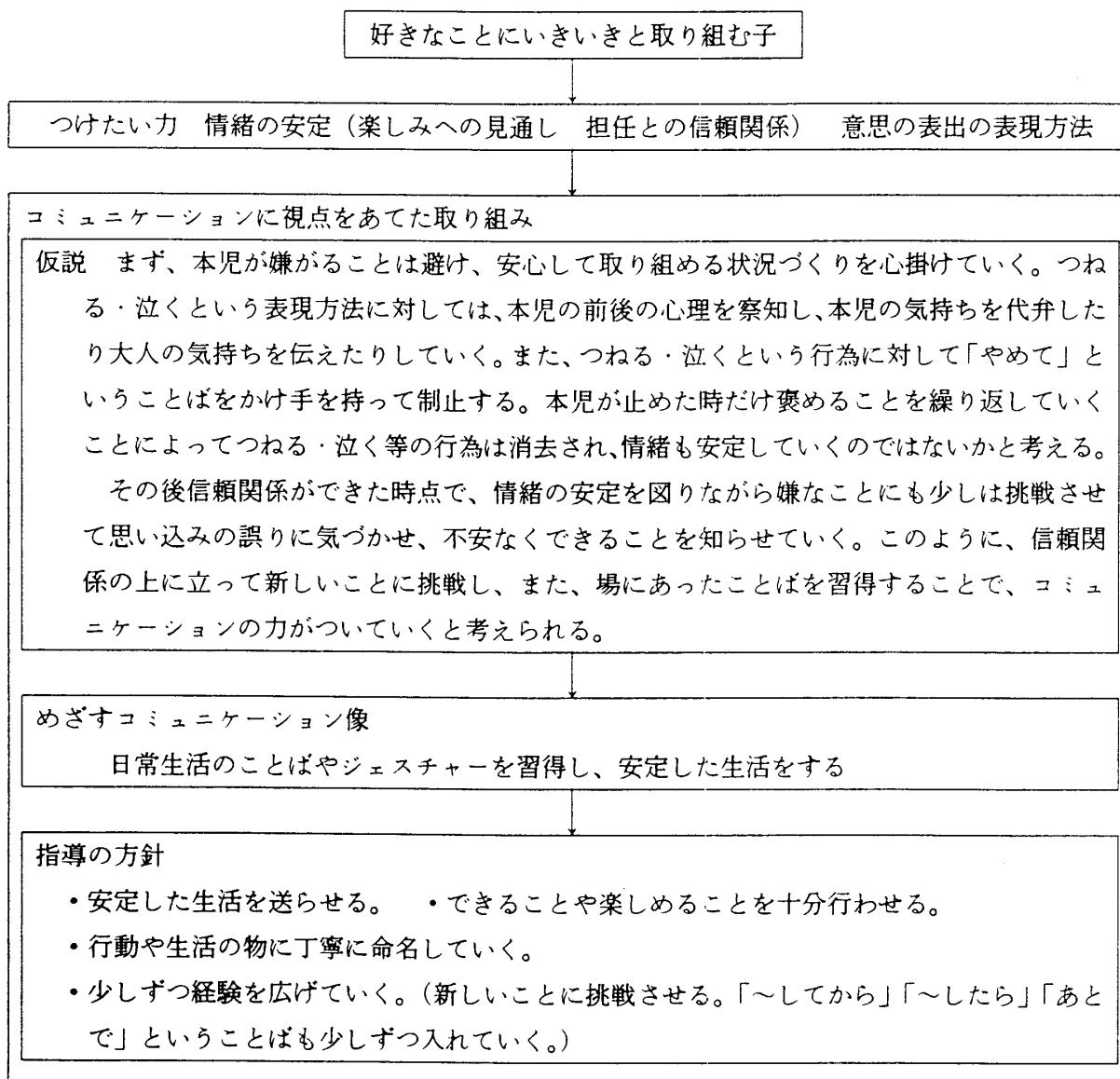
数枚の日常生活用品の絵カードの中で、「~はどれ」という問い掛けに対して指さしたり簡単な用途を言われて指さしたりすることができる。

特定のことば (例えば「おわり」「だめ」) を聞いてパニックを起こすこともあった。

#### (4) 行動特性

直観的に環境を把握することができるが、思い込みも強く、その思い込みによって恐怖心を持ち、行動を制約することが多い。言語理解は発語に比べるとできているが、これも思い込みがあり本来の意味ではない受け取り方をする場合もある。また、内言語に比べ、発語は遅れていて、理解してもらえないと本児が感じると他者をつねったり泣いたりする。気が向けば大人や友だちとの関わりを持つことを好み関わってもらおうと喜ぶが、そのかわり方は未熟で叩いたり押ししたりすることも多い。

## 2 取り組みの構想



## 3 指導の実際

**情緒の安定を図りながら、生活を整えていった。**

4月当初、以下のようなことが原因で、本児が不安定になり、頻繁にトイレに行ったり大泣きしたり自傷行為を行ったりという問題行動が非常に多かった。

- ・環境の変化、刺激の多さ。 ・1年の時の教室に入ろうとして、止められて。
- ・次の予定の時間だからと好きな遊びを止められて ・「待って」といわれて。
- ・「おわり」ということばに反応して。 ・喋り続けている友だちが嫌で。



それに対し、仮説に述べたような考え方で対応していった。

その結果、問題行動が少しずつ少なくなり約1ヵ月で1日中泣かないで過ごせる日もできてきた。

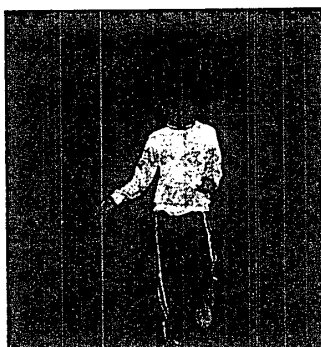
6月になり、本児に生活の見通しができだし、楽しめる活動も増えてきたので、少しずつ安定してきた。その後、

- ・給食の時間、むらのある食べ方をする本児に対して、以前に食べたことがあるものや食べられそうと判断した食べ物が残されていたとき、「これを食べてからおかわりしようね。」という条件を聞き入れて、残していた食べ物を食べてからおかわりをすることができた。
- ・大好きな砂遊びで、今までは、休憩時間の終わりに「教室に入ろう」という指示が受け入れられず、大泣きをすることが多かったが、友だちが教室に入るのを真似て、自然にさっと入ってくることができるようになった。

12月現在、以前のような大泣きは、見られなくなった。また、泣くことがあっても時間が短かったり手遊びや踊り等の遊びで気を紛らわせ、すぐ立ち直ることがほとんどである。しかし、次の問題として、教師との関係が親密になった結果、教師が他の子に関わると泣くということがでてきている。また、給食では、少し食欲が落ちおかわりの要求が少なくなったり、トイレに行く回数は減ったが、下着を汚すことが多くなった等の問題がまた新たに起こってきている。

#### 楽しめる学習や遊びを多く取り入れた

本児は、砂遊び・水遊び・絵の具遊び・なぞり書き・ボール遊び等の感覚遊びが多い。自由遊び以外の他の場面では、拘束することが多いので、自由遊びの給食・洗面・掃除後の休憩時間(13:10~13:40)には、一人で遊びを



ボール遊びをするU男



くつづくりに取り組むU男

堪能したり少しはかかわってボール遊びや手遊び等をしたりして遊ばせた。

また、学習でも本児の好きなのりつけ色ぬり等の制作活動やなぞりがきや動作の模倣を学習の中に意識して取り入れるように努めた。

#### 本児にとってのコミュニケーションやことばについて考えていった

##### ○基本的な考え方

「～してもいいですか」と許可を得るとき、視線を合わせ「アーアー」と音声を出し、指さしやしたい行動をはじめめる動作をする、嫌なことは泣く・つねるといった行為で知らせる等コミュニケーションの素地は養われていると思われる。そこで、より好ましい人との関わり方やことばの

使い方を丁寧にゆっくり焦らないで身につけさせていきたいと考える。

①日常生活の中でのきまったことばを大切にしてい

あいさつ「おはよう」「さようなら」「これで～を終わります」「ありがとう」

「いただきます」「ごちそうさま」「おそうじ、ごくろうさまでした」

要求のことがら「おしっこ」「おかわり」

朝の会の挨拶の歌 みんな「Uくんおはようございます」U男「みなさんおはようございます」

その結果、2年生の12月現在、「おはよう」の挨拶の場合、教師が「お」と言い、顔を見て待っていると「お」に続けて一音ずつ「は」「よー」と続けて言えるようになった。また、長い間同じことを続けていくことによって、その場で言うことばであることがわかり、待ったり促したりするとそれらしく言えることが多くなっている。

②劇活動の中での台詞や動作を一つひとつ丁寧に指導してい

設定された劇の場で、自分の言うべき時を判断し、動作をしたり台詞を言ったりする劇活動は、同じことを繰り返し練習でき、その結果できたという自信が持て、それを身近な人に見てもらえるという利点があり、本児にとって大変いい指導の場だと考える。そこで、脚本を考えるとき、得意な音楽を伴った動作模倣を多く取り入れる・単語を中心として日常生活で本児が使いやすいと思われることばを台詞として取り入れるという2つの点に配慮した、下の表は3つの劇活動で本児が使った音楽や台詞を挙げる。

たなばた発表会「おむすびころりん」	学習発表会「こびとのくつや」	クリスマス会「こびとのくつや」
役…ねずみ 動作・ダンス…台詞に伴った動作（「僕は」、呼びかけで口に手を持ってくる）ダンスは、もちつき の歌とディズニー体操。 台詞…「おじいさん」「おじいさんどうぞ」「おじいさん、おいで」	役…ことり 動作・ダンス…ことりを表す羽ばたきの動作。さようならの動作等。くつを持っていくときの忍び足。フィナーレのダンス。 台詞…「よかったね」「じゃあ、ぼくも つくるよ」	役…こびと 動作・ダンス…ダンス「もりのこびと」「サンタが街にやってきた」 外 台詞…「おじいさん、おばあさん」「よかったね」

劇活動の中で本児は、前にいる指導者をしっかり見つめて動作をしたり、丁寧に台詞を言ったりする姿が見られた。

4 反省と今後の課題

つねる・泣くという問題行動が随分少なくなってきて安定してきているという印象を持ってきている。さらに、自分の得意な学習にも真剣に取り組む場面も多く見られるようになってきている。しかし、本児の場合、環境が変わったり声かけの仕方によって過去に出来ていたことができなくなってしまうたり、「～がすんだら～しようね」という交換条件を少しずつ受け入れるようになったら、今度のはつねる等の行為が頻繁になりトイレ通いが多くなったりというように単純によくなってきているとは言いがたい一面もあった。本児の気持ちを第一に考えながら、目の前の変化のみに眼をむけずに大きな視点で本児の発達とはなにかを考えながら対応していく必要を感じている。